

## 「国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP)」第 8 回ワークショップ開催

2021 年 6 月 18 日、SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) の第 8 回ワークショップがオンラインで開催され、参加大学 25 校から 62 名が出席しました。今回は、2021 年インパクトランキングにおいて、日本からの参加 85 校中総合順位が一位タイであった広島大学の SDGs の取り組みを、統括担当である金子慎治理事・副学長（以下、金子理事）に講演していただきました。金子理事は、「広島大学の SDGs の取り組み：グローバル戦略と地方創生の融合」と題し、広島大学の多岐にわたる SDGs の取り組みおよびその強みと特色を生かした大学経営について次のように話しました。

広島大学は、長年にわたり平和研究・教育にとり組むと同時に、近年では SDGs への貢献を全学的な重要課題と位置付けています。現在は、大学改革、国際化、教育、研究、地方創生といった 5 つの分野が、相互に関係し合いながら発展し多様な取り組みを進めています。2017 年には、長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) Plan 2017」を策定し、新しい平和科学の理念の創生に挑むべく今後 10 年間のプランを表明しました。また、2018 年を「SDGs 実装元年」として、「広島大学 FE (Future Earth)・SDGs ネットワーク拠点 (Network for Education and Research on Peace and Sustainability: NERPS)」を設置し、「目標 4. 質の高い教育をみんなに」と「目標 16. 平和と公正をすべての人に」における取り組みに注力することにより、他の目標に関する活動をもさらにけん引するという決意を表明しました。NERPS は、多様なアクターが参加する教育研究拠点であるとともに、国際社会のサステナビリティと平和を統合的に研究するネットワーク型拠点としての重要な役割を担っています。

同時に、大学院再編を行い、11 の研究科を 4 つの研究科に再編し、学際融合的な教育研究を促進しています。また、1994 年に日本における開発系大学院として創設され、実績を挙げてきた IDEC (International Development and Cooperation) が、「IDEC 機構」という全学組織として生まれ変わり、4 つの研究科を組織横断的に貫き、教育、研究、実践部門を備えたスケールの大きな組織となりました。欧州のグラーツ大学、ライプチヒ大学との連携のもと、サステナビリティ学の学位が取得できるジョイントマスタープログラムも開始しました。

重要な国際活動としては、アリゾナ州立大学(Arizona State University: ASU) との連携が挙げられます。ASU は SDGs の取り組みに大変力を入れており、今年 4 月に発表されたインパクトランキングで全米で第 1 位、世界でも 9 位タイにランクインしました。特に、クロウ学長 (President Michael M. Crow, 2002~) が提唱する大学経営モデル「アカデミック・エンタープライズモデル」は、ASU が 15 年ほどでアリゾナ州の小規模の教育大学から

世界的な研究大学に飛躍的な発展をとげたことに大きく貢献したことを強調しています。具体的には、全米初のサステナビリティ学部を設立するとともに、周辺のキャンパスタウンであるテンピ市やフェニックス市と連携したイノベーションの社会実装実験などが挙げられます。また、サンダーバードグローバル経営大学院を吸収し、エグゼクティブ教育プログラムの収入により最先端の研究環境を整備する取り組みなども実施しています。このアカデミック・エンタープライズモデルについては、広島大学執行部が綿密な調査を行い、実際に現地を訪れて多くのアイデアを取り入れることで、広島大学のグローバル化と地域創生の展開につなげる良いきっかけとなったことが説明されました。

また、ASU とテンピ市は、日常的に包括的な連携関係を持っており、タウンガウンオフィス (Town & Gown Office) を設置し、タウン (街) とガウン (学生や教員) が一体となったまちづくりや、地域における SDGs の達成に向けた様々な課題の解決を目指しています。これをモデルとして、広島大学と東広島市が連携し、2021 年 4 月にタウンガウンオフィス設置準備室を置きました。広島大学がある東広島市は、高齢化や人口減少が進行し、卒業生の東広島市での就職率は 3% という課題を抱える一方で、留学生や地元企業の外国人社員の増加により地域の国際化が進んでいます。広島大学と東広島市は、その強固な連携を土台とし、長期ビジョンと戦略にもとづく、イノベーション人材の取り込みや新しい成長力を生み出すサステナブル・ユニバーシティタウン構想を掲げ、民主導型イノベーション拠点を目指して活動しています。

2021 年からは、広島大学と東広島市に住友商事株式会社が加わり、「包括的な連携推進に関する協定」を締結しました。この協定に合わせて、広島大学は「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」を行い、政府が宣言した 2050 年脱炭素社会の実現に先んじて、2030 年までに学内のエネルギーに関わる温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることおよびスマートキャンパスの実現を目指しています。研究・実践に企業のアイデアが加わり、地方創生の新たな産学官連携モデルを構築し、社会変革を先導する動きを開始しています。

金子理事は、大学経営を支える重要な活動として、まず、世界の有力大学との連携を保持していること、地元自治体や企業と連携し SDGs 達成に向けて地道な取り組みを継続していること、そして、ウェブサイト他で国際的に発信していくことが重要であると指摘し、今後も持続可能な未来都市づくりのために積極的に取り組んでいきたいと強調しました。また、インパクトランキングについては、来年は 100 位以内の位置づけを目指していることを述べ、講演を終えました。

その後、SDG 大学連携プラットフォームのチェアである山口 IAS 所長をモデレーターとして、質疑応答が行われ、SDGs に関わる取り組みへの学生のリアクションおよび学生の意識

付けへの工夫について議論が展開されました。広島大学の SDGs 意識調査では、SDGs の認知度は 8 割程度とかなり高いところまで上がっているが、学内の NERPS などの個別の取り組みについては 4 割程度であるとの情報が共有されました。また、学生の行動変容を促すための仕組みとして、住友商事と連携した課題解決に向けたキャンパスワークショップを開催や、市役所とともに開発した共通アプリを通じた行政サービスの大規模展開などの事例が紹介され、今後の学生の意識付けや行動変容への期待が述べられました。

第 2 部の参加大学によるグループ討論では、「大学評価の大学経営への活用」をテーマに 8 つのグループにて論議が行われました。国際的なランキング参加のメリットおよび課題に関しての主な意見は下記の通りです。

#### <ランキング参加のメリット>

- ・ランキングに参加することで、大学の一体感や総合力を高め、経営力の強化につながる。また、学生の自発的な取り組みを促進し、それが結果的に大学の評価につながっていく。
- ・大学が組織としてランキングに取り組むため、SDGs 事務局の整備やホームページの開設により全学的な体制が迅速に整った。
- ・SDGs の取り組みを知ってサポートを提供する組織などが増え、寄付やクラウドファンディングで大学の取り組みの支援を促進する仕組みが形成された。

#### <課題>

- ・ランキングでは、大学間連携、産官学の連携、地域連携など、コンソーシアム的な取り組みも評価されるべきである。
- ・大学全体として SDGs への認知度が低いと一致団結は難しい。SDGs をキーワードとして学部横断の協働に期待したい。
- ・長期的な視野のもと大学が目指すべきミッションおよび広報戦略を構築した上で、ランキングを有効活用することが重要である。

また、SDGs に向き合う体制整備に関して、「トップダウンで体制を整備し、計画通り推進することは実現性が高く効率的である」という見解の一方で、「ボトムアップで構成員の組織化した SDGs 推進会議は機動力が高い」という双方の意見が確認されています。

総括として、村田俊一関西学院大学総合政策部教授（SDG-UP アドバイザー）は、広島大学の特色と強みは、平和の理念である SDGs 目標 16 に焦点をあてた Splendor Plan 2017 を大学のビジョンとして強調していること、そして、広島大学の「アカデミックエンタープライズが駆動するサステナブル・ユニバーシティタウン構想」において東広島市と住友商事が共同参画し、魅力的な街づくりが進んでいることであると指摘しました。また、大学の評

価はランキング自体が全てではなく、その結果をツールとして今後の大学の改革や組織化に活かせるということが本日の議論のコンセンサスであることを指摘しました。また、優れたリーダーシップによる大学経営のもと、SDGs を実践するための取り組みを継続することが、学生たちの行動変容につながることを強調しました。各大学の特徴や強みに SDGs を積極的に組み入れ、多様な社会貢献に関わることができる学生を数多く輩出することが我々の使命であると強調し、ワークショップを締めくくりました。

参加大学 25 校（アルファベット順）

愛媛大学

広島大学

北海道大学

国際基督教大学

国際大学

神奈川大学

金沢大学

慶應義塾大学

関西学院大学

北九州市立大学

九州大学

九州産業大学

ノートルダム清心女子大学

大阪大学

大阪医科薬科大学

龍谷大学

創価大学

上智大学

東海大学

東京都市大学

東京外語大学

東京工業大学

東京理科大学

筑波大学

東京大学